

2019年度
小論文B
(問題)

<H31139281>

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2〜3ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄に、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. 受験番号および氏名は、試験が開始されてから、解答用紙の所定欄に正確に丁寧に記入すること（左記記入例参照）。所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。なお、解答用紙が複数枚ある場合には、それぞれ所定欄に記入すること。
5. 受験番号の記入にあたっては、左記（数字見本）にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。読みづらい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

(記入例)
53001



万	千	百	十	一
5	3	0	0	1

(数字見本)

0	1	2	3	4
5	6	7	8	9

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも解答用紙は必ず提出すること。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

小論文作成上の注意

1. 句読点、記号等、および改行のために生じる余白もすべて字数に含む。また、解答用紙の字数を超えて解答してはいけない。（句読点、記号等は、必ず独立した一マスを使用する。）
2. 本文中に自分の氏名を書かないこと。
3. 下書きは、別に配付の下書き用紙を使用すること。試験終了後、下書き用紙は持ち帰ること。

左の文章を読んで、設問に答えなさい。

グーテンベルクが活版印刷を発明したのは十五世紀。これによって、聖書や新聞などが、大量に刷られることが可能になった。でもいくら大量に印刷されたとしても、この時代の印刷物は、マスメディアには決してなれなかった。

ところが映像と音のメディアは、識字能力を必要としない。教育など受けていなくても、基本的には誰だつて見ることはできるし聞くこともできる。

こうして二十世紀初頭、もう少し正確に書けば一九二〇～三〇年代、この世界に初めてのマスメディアが誕生することになる。そしてその帰結として、ファシズム（全体主義）が誕生した。

あなたは不思議に思ったことはないだろうか。ファシズムという政治形態がスペインやイタリア、そして日本とドイツなど同時多発的に登場するのは、やっぱり一九二〇～三〇年代だ。この時代以前に、ファシズムは歴史に登場していない。

誰もが理解できるメディアが誕生したことで、特定の政治的意図のもとに、主義や思想や危機意識などを、大衆に何度も強調して刷り込むことが可能になった。つまり大規模なプロパガンダが可能になった。

でもそれは人々がメディアを理解していなかった昔の話。それにメディアの側でも現在では、さすがにそこまで露骨なプロパガンダを行わないはずだ。もしあなたがそう思うのなら、僕はもうひとつの例を提示しよう。

一九九四年、アフリカのルワンダで大虐殺が行われた。フツ族によって殺害されたツチ族の犠牲者の数はおよそ一〇〇万人。国民の一〇人に一人が犠牲になった。テレビがまだ普及していない（しかも識字率も高くない）ルワンダにおいて、ラジオは唯一の国民的な娯楽だった。フツ族向けのラジオ放送局がツチ族の危険性をしきりに煽り、その帰結として「彼らを殺さないことには自分たちが殺される」との意識が喚起され、最終的に未曾有の虐殺が始まった。あるいは二〇一四年にクリミア併合をめぐって勃発したロシアとウクライナの紛争の際、それぞれの国のメディアはSNSなどの映像を使いながら、自分たちの正当性と相手国の残虐性を自国民に訴えた。こうして高揚した相手国への憎悪は、地域の紛争をさらにエスカレートさせる燃料になった。

視聴率や部数を上げるため、メディアは不安や恐怖を刺激する。そして人は、この刺激に最も弱い。なぜなら群れて生きるからだ。

樹上生活から地上に降りてきた人類の祖先は、二足歩行を始めるのとはほぼ同じころ、単独ではなく群れて生きることを選択した。地上には天敵がたくさんいるからだ。一人では捕食されてしまう。でも集団なら天敵も簡単には近づかない。こうして人は群れる本能を獲得する。群れる動物は人だけではない。イワシにメダカ、スズメやカモ、トナカイにヌー、まだまだたくさんいる。

これら群れる動物の共通項は、いつも天敵に脅えていることだ。トラやシャチやワシやタカは群れない。彼らは天敵の存在に脅える必要がないからだ。

人は身体的にはきわめて脆弱な生きものだ。筋肉は衰えたし泳ぎは下手だ。翼はないし鋭い爪や牙も進化の過程で失った。だからこそ人の危機意識は強い。いつも脅えている。まさしく

小鹿のように。

ところが人は、自由に使えるようになった二本の手を使って道具を作り、やがて火薬を発明し、武器を所持し、いつしかこの地球上で最強の動物になっていた。もう天敵に脅える必要はない。でも群れる本能は遺伝子レベルで残っている。

もしも天敵に襲われたとき、群れは一方向に全速力で走る。どんな敵なのか。どれほどに危険なのか。それを考える余裕はない。ただひたすら走る。この状態になったとき、群れに帰属する個は、自分が全体と同じ行動をとっていることで安心する。だから全体と一緒に必死に走る。つまり、自ら望む同調圧力だ。

エーリッヒ・フロムはこの状態を「自由からの逃走」と名づけ、ドイツ国民が民主的な手続きを経ながら強権的なナチスドイツに全権を委任する過程を考察した。人は自由が怖くなる。全体が走れば一匹も走る。そして一匹が走れば全体も走る。つまり個と全体はともに相互作用の同調圧力を持つ。こうなると他の人たちと違う動きはしづらい。群れはひとつの生きもののように動く。

野生の生きものは鋭い感覚で全体の動きを察知するが、進化の過程で鋭敏な感覚を失った人類は、代わりに言葉を得た。だからこそ集団化が加速するとき、多くの人は指示や命令が欲しくなる。自由よりも束縛されることを無意識に望む。強い為政者を求め始める。

オウム事件をきっかけにして始まった日本の集団化は、二〇〇一年のアメリカ同時多発テロで世界規模にトレースされた。特にアメリカは、まずは集団の結束を固めるために愛国者法を制定して集団内の異物を排除し、国民の統合を呼びかけるブッシュ大統領の支持率は一気に上昇し、敵を探してこれを殲滅する（もし可視化できなければ無理やりに設定する）という集団化のプロセスを、まさしくモデルケースのように実践した。ここで留意すべきは、ひとつの集団の結束の高まりは他の集団との分離を促進する、ということだ。こうしてナショナリズムやレイシズムの衣をまといながら、自分たちと敵対する集団が周囲が増えてくる。

集団化の過程で人は指示や命令を求める。見つからない場合は無自覚に作り出す。そして仮想の指示や命令に従う。これが組織内における付度だ。普遍的なアイヒマンが同時多発的に誕生する。特に日本人は集団と相性がいい。言い換えれば集団化しやすい。一極集中に付和雷同。個が弱い。集団に摩擦なく従属してしまう。

こうして群れは暴走を起こす。高揚した危機意識は敵を可視化しようとする。もしも可視化できなければ無理やりにでも作り出す。なぜなら敵が見えたほうが安心できるからだ。

（森達也「群れない個が地球を救う」『世界思想』四五号、世界思想社）

〔設問〕

（一）ファシズムは、どのようなメカニズムによって生み出されるのか。また、それはどのような帰結をもたらすか。二百字以上、二百五十字以内で述べなさい。

（二）現代の社会において、どのような「群れの暴走」の危険が考えられるか。また、それを防止するためには、どのようなメディア・リテラシーが必要とされているか。あなたの考えを四百字以上、五百字以内で述べなさい。

〔以下余白〕

<H31139281>

受験 番号	万	千	百	十	一
カナ氏名					
氏名					

(所定欄以外に番号・氏名を書いてはならない)

2019年度

小論文B
(解答用紙)

No. 1 / 1

採点欄

記入上の注意

- (一) 解答は縦書きとし、楷書で右から左へ書くこと。
- (二) 小論文解答用紙は汚したり、折りまげたり、破ったりしないこと。
- (三) 字数を厳守すること。

(一)

(ここより左側には何も書かないこと)

250

200

(二)

(ここより左側には何も書かないこと)

500

400

300

200